

青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証および今後の方向性に関する主な意見

1 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

○青梅市ゆめ・うめ・おうめ創生本部会議

- ・ K P I は未達成が多く、まち・ひと・しごとでやってきた事業の推進だけでは K P I を達成できない。事業も政策パッケージも新たなものを加えていかなければというふうに分けられる。
- ・ この K P I をこのまま続けていくのは難しいのでは。 K P I 自体も、何を目標としたらよいか、再検討したらどうか。

○青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会

- ・ K P I の数字の取り方や目標値に無理があるのではないかと。実態と離れてしまっているような気がする。
- ・ 基本目標 3 に、時代に合った都市機能の充実とあるが、(K P I の) J R 青梅線の乗降客とかの数字はそのままでよいか。乗降客が増えれば充実なのか、そうではない捉え方もあるのではないかと。→ ツイッターのフォロワー数というものもある。
- ・ 待機児童は 4 人となっている。ゼロではないが、ほぼ合格なのではないかと。
- ・ 4 年経って、人口はほぼ推計どおりに推移している。だからといって 4 年間やってきたことが無駄ということではない。人口は減っていくが、こういうところが増えるとか、こういうことを充実させていくとか、こつこつやっていくことがいいのでは。そういうことが反映されるような K P I にしたらどうか。一生懸命やったことが出てくる数字にしたほうがよい。

2 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の方向性について

○青梅市ゆめ・うめ・おうめ創生本部会議

- ・ 人口、農地等や農業者が減る、増えてるのは空き家、高齢者、世帯数。農地がつぶれて戸建が建って人口が増える。そしてそれらは、また何十年かすれば空き家にある可能性がある。そういうこともあるので、根本的なことを考えてつくっていかないといけないのでは。
- ・ 今後宅地が売れなくなった時に、農地をどうやって守るかという時代に入っていく。これからは住宅が余る時代。青梅は住宅が 2 千万円を切っている。
- ・ これは総合長期計画ではなく、まち・ひと・しごと創生総合戦略なので、考え方によっては一般的な目標ではなく、もっととがった目標でもいいのでは。おうめの特色は何なのか。例えば、子育て施策ならばもっと特色があるようなとがったものでもいいのでは。
- ・ 情報化に特化してもいいし、コミュニティに特化してもいいし、夢を感じられるものにしてはどうか。
- ・ この計画に限ったことではないが、いかにほかに向けて発信をしていくか、こ

の計画に限らず求められていく。青梅を認知してもらうとともに、いいところ、住みたいと思えるよう認知してもらえらる取り組みが必要。

・青梅線は五日市線と比べるとすごく本数がある。そう考えると駅までのバスがあればということにもなる。公共交通の問題になってしまうが、思い切ってそこにお金をかけて、朝と帰りは通勤者のためと、昼は高齢者や主婦等のために何本かを駅まで接続すれば、かなりインパクトがある。

○青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会

・自治会加入率の件があるが、システム自体を変えないと難しい。若い人が自治会長になって、自分たちのまちをこうしようよと言えば、協力する人が出てくるかもしれない。とはいっても若い人を自治会長にできるかということ、若い人はそれどころじゃない。

・ツイッターなどを活用する手法は良くも悪くもみんなを引き付ける。青梅市も、子どもを産み育てたいとか、起業したいとか、そこに特徴があることや、他の市町村にないことをやるとか、他の市町村がやる前にやるとかできないかなと。よそでやっていないことができないかなと思う。

・今、世の中がスピード感を持って変わっている。社会の変化にスピード感をもって対応していかないと青梅が遅れてしまう。ラジカルに変えるのは難しいかもしれないが、後手に回らないように考えてほしい。

・空家の活用事例が少ないが、空き家を活用すれば、ここから都心に通えるイメージもできるのではないか。どういう人を空き家に入れたいかはっきりした方がいいような気がする。